

【分野名：医学系】

大 学 名	千葉大学
拠点のプログラム名称	消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点
中核となる専攻等名	大学院医学薬学府先進医療科学専攻
拠点リーダー氏名	丹沢 秀樹
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>消化器扁平上皮癌（口腔・咽頭・食道領域の癌）で年間約3万人が発症し約半数が死亡している。これらの領域の癌は診断や治療のアプローチが共通であり、包括的に診療・研究することができる。また、口腔・咽頭・食道は構音・咀嚼・嚥下などの重要な機能を司るため、機能温存も考慮した次世代型の最先端医療が望まれている。千葉大学は、放射線医学総合研究所、千葉県がんセンターとの協力のもとに多くの研究・治療実績があり、国内的にも国際的にも中心的役割を果たしている。本拠点は、多施設、多分野と一体になり、本疾患に対する最先端技術を駆使した遺伝子制御治療法の開発・実施を行うとともに、最先端医療を担う人材を育成する。</p> <p>【実施項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 千葉大学、放射線医学総合研究所、千葉県がんセンターにおける研究・治療、および、それぞれの大学院生、若手研究者の交流・教育を協力して行なうための教育プロジェクト、システムを構築する。 2) 癌遺伝子診断・治療を実践できる人材を育成する。 3) 現在の p53 遺伝子治療の対象を食道癌に限らず、咽頭癌と口腔癌に拡大する。 4) 新規遺伝子治療を研究し開発する。 5) 個々の症例における遺伝子解析による癌の質的評価を行ない、最適な治療法の選択基準を作成する。特に、重粒子線治療の適応を遺伝子解析情報に基づいて決定する。 6) 前癌病変の遺伝子解析により発癌リスクを評価して癌予防法を開発する。 7) 早期癌診断、治療効果判定、再発管理等に有用な新規腫瘍マーカーを作製する。 	